

佐伯 ふみこ

日本共産党

10月19日



佐伯さんは元市議会議員で、実績も十分、「市民の暮らし、中小業者の営業を守る」熱い気持ちをもっている方です。

私に倍する支援を、今度は佐伯さんに、お寄せください。

市議会議員 近藤けい子



1950年生まれ。緑が丘在住。石川歯科衛生士学院卒業。1977年より小松民商、金沢民商を経て石川県商工団体連合会事務局長に就任。中小業者の営業と生活を守る運動に従事。2017年から能美市議会議員(1期)。現在:日本共産党能美市委員。家族は母。趣味は編物。

税金はくらし第一で
医療・介護を守って

とんでもありません。議員報酬の引き上げ(37万円→45万円)

月8万円(年2200万円)の引き上げ中止し、くらしの予算に

【声】 8万円といったら、私の1か月のパート代です。私らは、こんなに大変なのに…。

【声】 少ない年金、何でも値上がり…。暮らしの応援をしてほしい。

議員報酬の引き上げ実施は、11月からです。新しい議会で、引き上げを中止させるために、頑張ります。

世論を広げ、引き上げ分をくらしのために使わせましょう。

こんな願いの実現を

- ◇ 国保税の「子ども均等割り」をゼロに。(必要額1840万円)
- ◇ 廃止された、心身・精神障がい者への医療費助成制度の復活。(必要額 1500 万円)

国と市には、医療・介護を守る責任があるのでは、ありませんか

はまなすの丘の統廃合、サービス減(・ディケア→0に・入所 74→29 床に)の中止を！

- * 「はまなすの丘」の統廃合計画に不安の声が広がっています。
- * 毎月、介護保険料を払っているのに、いざとなったら「利用できる施設がない」というのでは、あんまりではありませんか。
- * 介護は人間らしい暮らしの支え。「介護事業所の赤字分の補助金を出す」(新潟・村上市等)など、介護サービス維持へ、市が責任を果たすべきです。



【声】 高齢化社会なのに、なぜ縮小するのか？

【声】 移行先の施設が見つからなかったら、どうするのか？

◇佐伯ふみこ History◇

中小業者の営業と生活を守って 40 年

白色申告の場合、「業者婦人の給与が必要経費として認められない」(所得税法56条)仕組みがあります。

「休業補償や介護休暇の権利もない」「給与が認められない分、税金が重くなる」…こういう声を沢山聞いてきました。



融資交渉で(中央)

「税金はくらし第一で」

私は、みなさんが苦勞して払った税金のムダ使いは、本当に許せません。「税金はくらし第一で」—私のモットーです。

結婚を機に能美市に

53歳の年、結婚を機に能美市に移住。夫の勝雄さんは、私が市議にでる時も「出たらいよいよ」と一言。いつも背中を推してくれる人でした。



介護の日々を通して

ところがその夫が、2年後に脳梗塞に。介護のため議員は2期目を断念。夫を看取るまで支えて下さった介護職の方々には、本当に感謝しています。

介護は人間らしい暮らしの支え。介護を、暮らしを守るため力を尽くします。



市民の声をハッキリ示そう